

自動開閉するシートシャッターなど制御機器メーカーの小松電機産業(島根県八雲村、小松昭夫社長)は、郷土の偉人にスポットを当てた人物伝記の出版事業に乗り出した。先人の偉業の紹介を通して、夢とロマンを備えたチャレンジャー

を育てたいとする小松社長が、出版活動という形で構想を実現させた。全国各地に手を挙げてもらいながら地域の先人を掘り起こし、シリーズで紹介していく方法で「一村一志運動につないでいく」とユニークだ。

出版事業をスタート

第1弾は八雲村の周藤彌兵衛

郷土の偉人をシリーズで紹介

小松電機産業 HNS研究所

同社では、新たなものへ積極的に挑戦する人間を育てようと、HNS(人間・自然・科学)研究所を平成六年十月に設立。広く国内外に講師を求め、研修交流の場を地域に提供するなど、人づくりを進めようとしており、小松社長の四年來の構想だった

出版事業も同研究所の活動の一環として手掛けることになった。

出版では、先人の偉業から未見を見つめる狙いで、郷土の環境と生活のために生涯を捧げた人たちを取り上げていくことにした。第一巻は、本社を置く島根県八雲村で江戸時代に生きた偉人、周藤彌兵衛を紹介。写真。五十歳代半ばから四十年余りにわたり岩山を削り、意宇川の流れを変え、洪水の苦しみから地域を救った彌兵衛の生涯を描いた。

各年齢層が手にできるように、児童文学、小説、漫画をそろえる予定で、既に児童向けと小説

の初版本がそれぞれ五千部ほど刷り上がった。漫画本は近く完成する予定で、三種類がそろえるのを待って出版披露することになっている。三種類はいずれもハードカバーの単行本で、小説が千四百円、児童向けと漫画は千三百円、ケース入りの三冊セットを四千円とした。どの購読者層の関心が高いかなどを調査するため書店には置かず、口コミによりPRしていく方針。

菓子の詰め合わせの感覚で「感動した本をお土産にする文化を広げたい」(小松社長)との考えで、三冊セットによる普及に力を入れていく。目の不自由な人のためにはテーパーライブラリーを作成したり、中国語訳を出版する計画もある。

第二巻以後は、全国各地に題材を求めていく予定で、史実の掘り起こしは地域に委ね、出版について支援していくことにしている。同研究所では広く賛同者を募り、将来的には基金制度によって出版事業を運営していく考えで、財団法人の設立を検討している。

